



オープンキャンパス 2025

各日程の詳細は
WEBでチェック！



4.27

SUN

渋谷キャンパス
日野キャンパス

6.1

SUN

渋谷キャンパス
日野キャンパス

6.15

SUN

渋谷キャンパス
(全学部合同開催)

7.6

SUN

渋谷キャンパス
日野キャンパス

7.20

SUN

渋谷キャンパス
日野キャンパス

8.2

SAT

日野キャンパス

8.3

SUN

渋谷キャンパス

8.23

SAT

渋谷キャンパス
日野キャンパス

9.15

MON

渋谷キャンパス
日野キャンパス

2026
3.22

SUN

渋谷キャンパス
日野キャンパス

◆ 大学院入学試験日程 (2026年度)

※ 詳細は2026年度大学院募集要項をご確認ください。

入試種別	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
I 期 食物栄養学 生活環境学	9月1日(月)～9月9日(火) 必着 ※最終日のみ窓口受付可(12:00締切)	9月18日(木)	9月22日(月) 10:00	9月29日(月)
II 期 全専攻	10月6日(月)～10月16日(木) 必着 ※最終日のみ窓口受付可(12:00締切)	10月30日(木)	11月7日(金) 10:00	11月13日(木)
III 期 全専攻	2026年1月5日(月)～1月28日(水) 必着 ※最終日のみ窓口受付可(12:00締切)	2026年 2月9日(月)	2026年 2月13日(金) 10:00	2026年 2月19日(木)

渋谷 キャンパス



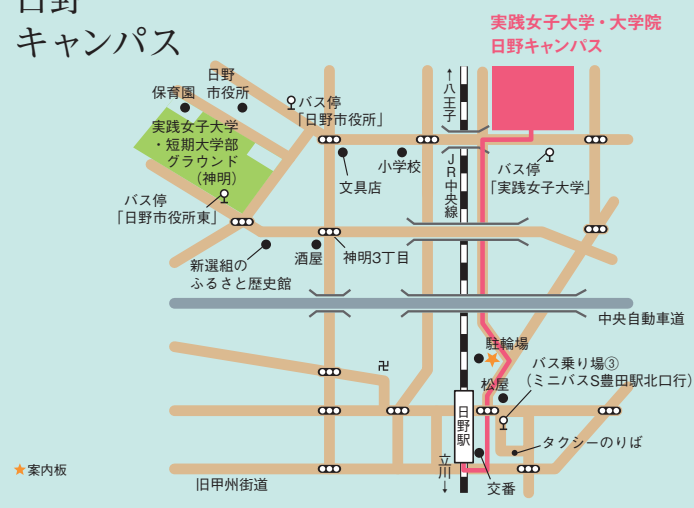
渋谷駅から

JR(山手線・埼京線・湘南新宿ライン)
東京メトロ(銀座線・半蔵門線・副都心線)
東急(東横線・田園都市線)
京王(井の頭線)東口C1出口から徒歩約10分

表参道駅から

東京メトロ(銀座線・半蔵門線・千代田線)B1出口から徒歩約12分

日野 キャンパス



★案内板

日野駅から

徒歩約12分(推奨)
日野駅発 日野市ミニバス[豊田駅北口行き]約2分+「実践女子大学」下車徒歩1分(60分に1～2本の運行です)
(いずれも約10分に1本の運行)
京王バス[日野駅行き(日02)]約15分+「日野市役所」下車、徒歩約5分
京王バス[日野駅行き(日03)]約13分+「日野市役所東」下車、徒歩約10分

高幡不動駅から



実践女子大学大学院

入学サポート部

<https://www.jissen.ac.jp/>

渋谷キャンパス

〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49 TEL.03-6450-6820

日野キャンパス

〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1 TEL.042-585-8820



SHIBUYA CAMPUS

GUIDE BOOK 2026

実践女子大学 大学院

渋谷キャンパス

文学研究科

- ◆ 国文学専攻 ◆
[博士前期課程・博士後期課程]
- ◆ 英文学専攻 ◆
[修士課程]
- ◆ 美術史学専攻 ◆
[博士前期課程・博士後期課程]

渋谷キャンパス

人間社会研究科

- ◆ 人間社会専攻 ◆
[修士課程]

日野キャンパス

生活科学研究科

- ◆ 食物栄養学専攻 ◆
[博士前期課程・博士後期課程]
- ◆ 生活環境学専攻 ◆
[修士課程]



HINO CAMPUS

大学院生のための 様々な制度をご用意しました！

TOPICS
1

各種奨励金制度

TOPICS
2

長期履修制度

TOPICS
3リサーチ・
アシスタント制度TOPICS
4学外研究資金の
獲得支援

1

各種奨励金制度

詳細はこちら



大学院在学中の研究活動をサポートするため、3つの奨励金制度を導入しています。

在学中から学会に参加したり、学会誌等に論文を投稿したりするなど、研究活動を積極的に行うことは、皆さんの論文作成や進路選択にとって、たいへん役立ちます。これらの奨励金制度を有効に活用して、充実した大学院生活を送る手助けとしてください。

✓ 大学院学会奨励金（対象：修士課程・博士前期課程・博士後期課程）

学会に参加する際の交通費、宿泊費や参加費等を助成する制度です。

	種類	支給額（一律）	支給回数上限※	
			修士・博士前期課程	博士後期課程
1	参加のみ	20,000 円	年次毎に いずれか1回まで	年次毎に いずれか2回まで
2	発表あり(国内)	50,000 円		
3	発表あり(海外)	100,000 円		

※修業年限を超えて在籍する者は、年次毎にいずれか1回までの申請上限とする。
※「発表」には、ポスター発表を含む。
※オンライン開催の学会に参加した場合は、以下の取扱いとする。
発表ありの場合：参加費の有無を問わず「発表あり（国内）」の区分で支給。
参加のみの場合：参加費が有償のものに限り「参加のみ」の区分で支給。参加費が無償の場合は、対象とならない。
※その他支払条件に定めあり。

✓ 大学院論文投稿支援金（対象：修士課程・博士前期課程・博士後期課程）

学会誌や学術誌への論文投稿にかかる費用を助成します。

■ 要件

本学大学院の学生として投稿する場合に限る。
共著の場合は、筆頭著者として投稿した論文であること。

■ 支給基準

- 論文作成・投稿経費（実費：上限50,000円／年）
- 作成にかかる翻訳料、英文等校閲料、または投稿料、掲載料、オープンアクセス料等、別刷・抜刷代（実費：上限10,000円／年）

✓ 大学院博士後期課程奨励金（対象：博士後期課程）

博士後期課程に在籍する若手研究者の研究活動費全般を助成します。

※申請者は研究計画を提出し、学内会議での審査を経て承認される必要があります。

支給額	150,000円（年額・奨学金として）
-----	---------------------

2

長期履修制度

詳細はこちら



■ 対象

修士課程・博士前期課程に入学する者のうち、以下のいずれかに該当する者を対象とします。

- 職業を有している者（臨時雇用者及び自営業従事者を含む）
- 育児あるいは介護等の事情を有する者
- その他、特別な事由があり研究科委員会で相当と認められた者

■ 申請時期・決定

申請は大学院出願時のみ受け付けます。出願時に申請しない場合、原則としてその後の変更は認めません。
申請可否は、可否判定とともに決定します。

■ 修業年限・在学年限

修 業 年 限：3年または4年とします。

在学可能年限：修業年限が3年の者は4年、修業年限が4年の者は5年とします。

■ 履修単位数制限

1年あたりの履修単位の上限は定めません。

✓ 修業年限の変更／長期履修学生への変更について

1

修業年限の変更を
希望する場合

長期履修学生として入学後、やむを得ない理由で修業年限の変更を希望する者は、研究科委員会で認められた場合に限り、2年次進級時に修業年限を変更することができます。

2

標準学生から長期履修学生へ
の変更を希望する場合

標準学生として入学後、やむを得ない理由で長期履修学生への変更を希望する者は、研究科委員会で認められた場合に限り、2年次進級時に長期履修学生に移行することができます。この場合、修業年限は3年または4年とします。

3

再入学者について

再入学者についても、研究科委員会で認められた場合に限り①、②の申請が可能です。ただし、再入学の時点で2年次以上に再入学した場合はこの変更はできません。

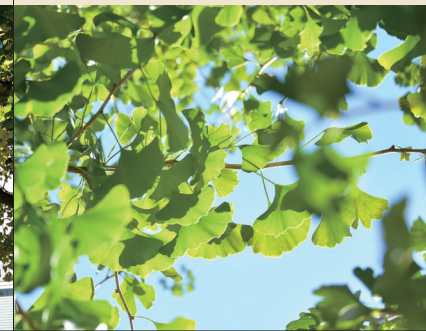
INTERVIEW

長期履修制度利用者の声

各分野のプロフェッショナルのもとで学べる魅力。

近代フランス美術について研究しています。仕事を続けながらの大学院進学は難しいと諦めかけていましたが、実践女子大学では美術史について広く学べること、さらに長期履修制度があることを知り「他の学生の半分のスピードなら、自分にもできるかもしれない」「学びたいと思ったときに最大のチャンス」と、思い切って挑戦しました。仕事との両立は容易ではないですが、授業に出て課題も提出できています。研究の時間は、仕事を忘れて好きなことに没頭できる貴重なひととき。この時間があるから、仕事も頑張れます。

黒田 見友君さん

文学研究科 美術史学専攻
博士前期課程 2年

3 リサーチ・アシスタント制度

詳細はこちら



大学院博士後期課程の在学者を対象として、RA(リサーチ・アシスタント)の制度を導入します。

RAに任用されることで、本学の研究プロジェクト等に補助者として参加し、給与を得ながら、研究活動に携わることができます。

RA(リサーチ・アシスタント)とは……

優秀な博士後期課程の大学院生が、大学が行う研究プロジェクト等に研究補助者として参画し、これに対する手当ての支給を受けることにより、研究遂行能力の育成や研究体制の充実を図るものです。(文部科学省の定義より)

■要件

(2024年4月時点)

本学の大学院博士後期課程に在籍していること。
本学が行う研究プロジェクト等に参加し、年度内に6か月以上、研究補助業務に携わること。
将来、研究者になる意欲と優れた能力を有すること。

■待遇

※その他、本学規定による。

給与 時給2,000円

勤務時間 週15時間かつ年間360時間を上限とする。

通勤交通費 原則は支給無し。(ただし長期休暇中の勤務については、所属キャンパスまでの交通費実費を支給。)

■手続

必要書類(採用計画書、履歴書)をもとに所属する研究科の会議で審議し決定する。

詳細は指導教員と相談のこと。

4 学外研究資金の獲得支援

詳細はこちら



学外団体が公募する研究資金の獲得は、安定した大学院生生活や、研究活動の高度化につながります。

本学では次のような取組みにより、学外研究資金の獲得支援を行います。

- 学外研究資金に関する情報発信の強化
- 学外研究資金の申請書類作成支援
- 日本学術振興会特別研究員の申請書類作成支援
- 学外研究資金の申請に関する相談窓口の設置(研究推進室)



学 費

2025年度^(実績) 大学院入学学費等納付金一覧

2025年度入学学費等納付金は、以下一覧をご参照ください。(学費の消費税は非課税です。)

■ 標準修業年

【単位:円】

区分	研究科名	専攻名	課程	学 費			その他の納付金 学生教育研究 災害傷害保険	入学手続時 納付金合計	後期納付金 (10月)	初年度 納付金 合 計
				入学金	授 業 料 (前期分)	施設設備費				
一般	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	230,000	350,000	45,000	2,080	627,080	395,000	1,022,080
		美術史学専攻	博士後期課程	230,000	350,000	45,000	3,120	628,120	395,000	1,023,120
		英文学専攻	修士課程	230,000	350,000	45,000	2,080	627,080	395,000	1,022,080
			研究生	115,000	^[年額] ^(※1) 350,000	—	—	465,000	—	465,000
	人間社会研究科	人間社会専攻	修士課程	230,000	350,000	45,000	2,080	627,080	395,000	1,022,080
				230,000	360,000	45,000	2,080	637,080	405,000	1,042,080
	生活科学研究科	食物栄養学専攻	博士前期課程	230,000	360,000	45,000	3,120	638,120	405,000	1,043,120
		生活環境学専攻	修士課程	230,000	360,000	45,000	2,080	637,080	405,000	1,042,080
			研究生	115,000	^[年額] ^(※1) 360,000	—	—	475,000	—	475,000
				50,000	350,000	45,000	2,080	447,080	395,000	842,080
内部	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	50,000	350,000	45,000	3,120	448,120	395,000	843,120
		美術史学専攻	博士後期課程	50,000	350,000	45,000	2,080	447,080	395,000	842,080
		英文学専攻	修士課程	50,000	350,000	45,000	2,080	447,080	395,000	842,080
			研究生	57,500	^[年額] ^(※1) 350,000	—	—	407,500	—	407,500
	人間社会研究科	人間社会専攻	修士課程	50,000	350,000	45,000	2,080	447,080	395,000	842,080
				50,000	360,000	45,000	2,080	457,080	405,000	862,080
	生活科学研究科	食物栄養学専攻	博士前期課程	50,000	360,000	45,000	3,120	458,120	405,000	863,120
		生活環境学専攻	修士課程	50,000	360,000	45,000	2,080	457,080	405,000	862,080
			研究生	57,500	^[年額] ^(※1) 360,000	—	—	417,500	—	417,500
				入学時1回	後期授業料は 前期と同額 (※1) 研究期間が 6ヶ月の場合は半額	年額 90,000	入学時1回 ※修業年限に より異なる			

※学生教育研究災害傷害保険の金額は、(公財)日本国際教育支援協会の保険料の見直しによっては変更となる場合があります。 ※次年度以降の学費等は経済変動にともない改定することがあります。

■ 長期履修(3年)

【単位:円】

区分	研究科名	専攻名	課程	学 費			その他の納付金 学生教育研究 災害傷害保険	入学手続時 納付金合計	後期納付金 (10月)	初年度 納付金 合 計
				入学金	授 業 料 (前期分)	施設設備費				
一般	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	230,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	493,120	260,000	753,120
		美術史学専攻	修士課程	230,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	493,120	260,000	753,120
		英文学専攻	修士課程	230,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	493,120	260,000	753,120
	人間社会研究科	人間社会専攻	修士課程	230,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	493,120	260,000	753,120
		食物栄養学専攻	博士前期課程	230,000	240,000	30,000	3,120	503,120	270,000	773,120
		生活環境学専攻	修士課程	230,000	240,000	30,000	3,120	503,120	270,000	773,120
内部	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	50,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	313,120	260,000	573,120
		美術史学専攻	修士課程	50,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	313,120	260,000	573,120
		英文学専攻	修士課程	50,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	313,120	260,000	573,120
	人間社会研究科	人間社会専攻	修士課程	50,000	(※2) 230,000	30,000	3,120	313,120	260,000	573,120
		食物栄養学専攻	博士前期課程	50,000	240,000	30,000	3,120	323,120	270,000	593,120
		生活環境学専攻	修士課程	50,000	240,000	30,000	3,120	323,120	270,000	593,120
備考				入学時1回	後期授業料は 前期と同額 (※2) 文学研究科、 人間社会研究科の 3年目は240,000	年額 60,000	入学時1回 ※修業年限に より異なる			

※学生教育研究災害傷害保険の金額は、(公財)日本国際教育支援協会の保険料の見直しによっては変更となる場合があります。 ※次年度以降の学費等は経済変動にともない改定することがあります。

■ 長期履修(4年)

【単位:円】

区分	研究科名	専攻名	課程	学 費			その他の納付金 学生教育研究 災害傷害保険	入学手続時 納付金合計	後期納付金 (10月)	初年度 納付金 合 計
				入学金	授 業 料 (前期分)	施設設備費				
一般	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	230,000	175,000	22,500	4,010	431,510	197,500	629,010
		美術史学専攻	修士課程	230,000	175,000	22,500	4,010	431,510	197,500	629,010
		英文学専攻	修士課程	230,000	175,000	22,500	4,010	431,510	197,500	629,010
	人間社会研究科	人間社会専攻	修士課程	230,000	175,000	22,500	4,010	431,510	197,500	629,010
		食物栄養学専攻	博士前期課程	230,000	180,000	22,500	4,010	436,510	202,500	639,010
		生活環境学専攻	修士課程	230,000	180,000	22,500	4,010	436,510	202,500	639,010
内部	文学研究科	国文学専攻	博士前期課程	50,000	175,000	22,500	4,010	251,510	197,500	449,010
		美術史学専攻	修士課程	50,000	175,000	22,500	4,010	251,510	197,500	449,010
		英文学専攻	修士課程	50,000	175,000	22,500	4,010	251,510	197,500	449,010
	人間社会研究科	人間社会専攻	修士課程	50,000	175,000	22,500	4,010	251,510	197,500	449,010
		食物栄養学専攻	博士前期課程	50,000	180,000	22,500	4,010	256,510	202,500	459,010
		生活環境学専攻	修士課程	50,000	180,000	22,500	4,010	256,510	202,500	459,010
備考				入学時1回	後期授業料は 前期と同額	年額 45,000	入学時1回 ※修業年限により異なる			

※学生教育研究災害傷害保険の金額は、(公財)日本国際教育支援協会の保険料の見直しによっては変更となる場合があります。 ※次年度以降の学費等は経済変動にともない改定することがあります。

文学研究科

研究科の概要

日本、東洋、西洋各地域の文学、言語、美術の各分野における研究に取り組みます。

国文学専攻

[博士前期課程・博士後期課程]

上代から現代に至る日本文学、日本語学、日本語教育、中国文学(漢文学)の科目を開設。幅広い分野の専任教員から、適切な指導を受けることができます。成蹊大学大学院・中央大学大学院・青山学院大学大学院・國學院大學大学院・聖心女子大学大学院との単位互換制度があり、大学の枠組みを超えた交流が可能です。

英文学専攻

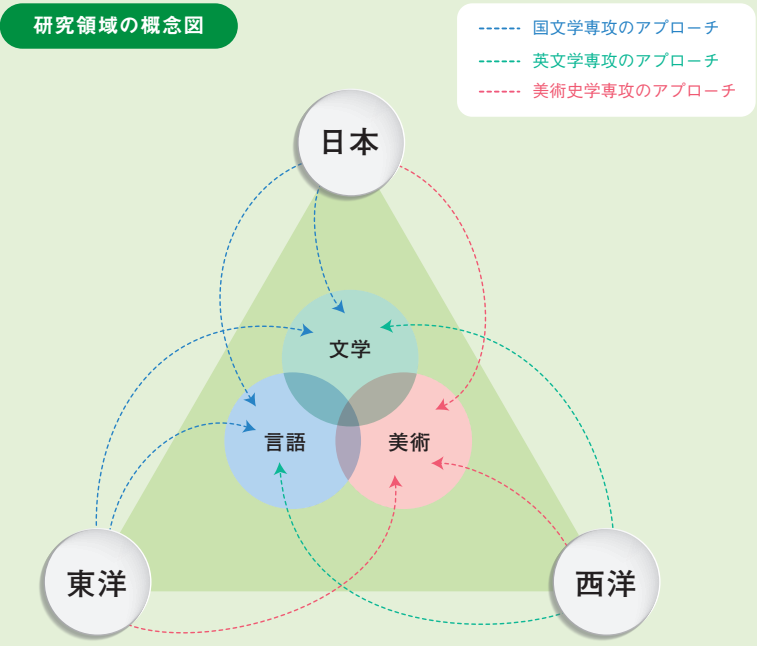
[修士課程]

英語圏文学・文化、言語学、ジェンダー表象を中心に深く学ぶとともに、より広範な文化事象などの関連分野についても学ぶ機会を設けることにより、豊かな人間性を涵養し、社会の様々な分野で活躍するための能力を育むことができるようにカリキュラムを編成しています。また、中央大学大学院・聖心女子大学大学院との単位互換制度があります。

美術史学専攻

[博士前期課程・博士後期課程]

日本美術史、日本近代美術史、仏教美術史、西洋美術史、西洋近代美術史、現代美術史、芸術学、民俗芸能の専任教員のもとに、専門的な研究を深めます。実作品の調査を重視し、実証的な研究方法を身につけます。また、隣接領域を学びつつ、異なる関心を持つ学生同士が切磋琢磨できる環境も特徴です。青山学院大学大学院・聖心女子大学大学院との単位互換制度があります。



◆ 養成する人材像

国文学専攻

国際的に活躍できる高度専門職業人として。研究者として。

高度な学識と研究能力を生かして、社会の各分野で指導的役割を果たすことのできる人材を育てます。また、研究者として自立できるだけの実力を育みます。

キャリアパス〈修了後の進路イメージ〉

中学・高校教員(国語科)／日本語教師(大学、日本語学校等)／研究職(大学、文化財行政等)／公務員(司書等)／一般企業(事務職等)／進学 等

英文学専攻

英語圏文学・文化、言語学、ジェンダー表象について深く理解する人材の育成。

高度な英語運用能力と、英語圏文学・文化、言語学、ジェンダー表象についての広い学識を身につけた研究者、中学校・高等学校教諭(英語)のほか、広く海外で活躍できる人材を育てます。

キャリアパス〈修了後の進路イメージ〉

中学・高校教員(英語)／大学専任・非常勤講師(英語・英米文学文化・言語学)／情報通信業(技術職)／教育・学校支援業／サービス業(文化団体)／翻訳業／進学 等

美術史学専攻

高度な専門性と実践的能力によって社会に貢献する人材。

研究を通して身につけた専門知識、調査能力、表現力を活かし、美術館、博物館をはじめ、公的機関、企業において、多様な文化・芸術を広く社会に伝えうる人材を育てます。

キャリアパス〈修了後の進路イメージ〉

学芸員(博物館、美術館等)／研究職(大学、文化財行政等)／博物館・美術館・展覧会の運営に関わる職／一般企業(販売職、事務職等)／進学 等

※各免許・資格は本学大学院修了と同時に取得または受験資格を得られるものではありません。

文学研究科

国文学専攻

※2025年4月時点での情報となります。(定年退職などの退職予定者含む)

専任教員プロフィール

池田 三枝子

専門分野：万葉集を中心とする上代文学
最近の研究テーマ等：「文学圏」「歌壇」等と称される人的ネットワークと、それを基盤として醸成される歌表現についての研究

大橋 直義

専門分野：中世日本文学・宗教文献学・宗教文化史学
最近の研究テーマ等：寺社縁起(絵巻・掛幅縁起絵・参詣曼荼羅)および寺誌、軍記物語・私撰国史・歴史物語・系図・血脈など、日本中世の歴史叙述とその書物についての研究。巡礼・参詣の史的研究。地域史研究と文化財(殊に古典籍・聖教)研究の架橋

大原 祐治

専門分野：日本近代文学・出版文化(雑誌研究など)
最近の研究テーマ等：1930～50年代における文学およびその周辺環境。雑誌と文学者の関わりに着目したメディア論的な研究。

田中 靖彦

専門分野：漢文学、中国史学史
最近の研究テーマ等：①中国における三国時代・三国人物像の変遷、②宋代における正統論の展開と三国論

棚田 輝嘉

専門分野：日本近代文学 特に「ことば」という文学の営みについて
最近の研究テーマ等：中原中也、樋口一葉。「詩」という表現の意味、作品の生成過程と、その背後にある人間という身体との関連、ポップカルチャーとしての文学・マンガ・アニメ・フォークソングの意味など

福嶋 健伸

専門分野：日本語学、主に文法
最近の研究テーマ等：日本語のテンス・アスペクト・モダリティの変遷に関する研究

舟見 一哉

専門分野：和歌文学、中古文学、書誌学、文献学
最近の研究テーマ等：中古中世における古典学の総体解明。とくに古典籍・古筆切を利用し、六条藤家の古典学、古今集注釈史を対象とする

科目紹介 [一部抜粋]

- ◆ 上代文学演習 A・B
- A・Bを通して上代文学研究の基礎を身につけることを目的とする。Aでは研究史の把握と用例の博搜に努め、訓読・解釈を決定する力を養う。Bでは更に歴史学・考古学・民俗学等の研究を踏まえ、研究論文を作成する力を身につける。
- ◆ 中古文学研究 A・B
- 中古の和歌・物語に関する通説は、書誌学・文献学の観点から再考しうる。古典籍・古筆切の実地調査を通して、新見を創出する手法を学ぶ。
- ◆ 近代文学研究 A・B
- この授業では、国文学専攻の学生の専門分野にあわせて、様々なテキストや映像を教材として活用しながら、研究に必要な英語スキルを鍛えることを目的とする。
- ◆ 日本語学研究 A・B
- A・Bを通し、修士論文執筆計画を立て、修士論文の最も中心となる部分に磨きをかける。具体的には、研究発表をし、その後、投稿論文に仕上げるという作業を行う。実際に、研究会で発表し、学術雑誌(『実践国文学』等)に投稿してもらうことが本授業の特徴である。
- ◆ 漢文学研究 A・B
- 中国の歴史と歴史観について講義する。中国の歴史の概説を学ぶのと並行して、中国における歴史書の筆法や、正統論の概念について検討する。
- ◆ 中世文学特殊演習 A・B
- 書物(古典籍・寺院経蔵文献)に軸足を置いた文化財の俯瞰的研究。ある寺社に蔵される書物のみならず、当該地域に所在する文化財を俯瞰的に見わたす方法を具体的に学ぶ。その過程において、寺院経蔵調査・実地的文化財調査を含む学術的アプローチに習熟する。

カリキュラム

博士前期課程 カリキュラム	
科目名	単位数
上代文学研究A・B	選択各2単位
上代文学演習A・B	選択各2単位
中古文学研究A・B	選択各2単位
中古文学演習A・B	選択各2単位
中世文学研究A・B	選択各2単位
中世文学演習A・B	選択各2単位
近世文学研究A・B	選択各2単位
近世文学演習A・B	選択各2単位
近代文学研究A・B	選択各2単位
近代文学演習A・B	選択各2単位
日本語学研究A・B	選択各2単位
日本語学演習A・B	選択各2単位
日本語教育研究A・B	選択各2単位
日本語教育演習A・B	選択各2単位
漢文学研究A・B	選択各2単位
中国文学演習A・B	選択各2単位
日本語日本文学研究A・B・C・D・E・F	選択各2単位
日本語日本文学演習A・B・C・D・E・F	選択各2単位
特別研究A・B	選択各2単位

博士後期課程 カリキュラム	
科目名	単位数
上代文学特殊演習A・B	選択各2単位
中古文学特殊演習A・B	選択各2単位
中世文学特殊演習A・B	選択各2単位
近世文学特殊演習A・B	選択各2単位
近現代文学特殊演習A・B	選択各2単位
日本語学特殊演習A・B	選択各2単位
日本語教育学特殊演習A・B	選択各2単位
中国文学特殊演習A・B	選択各2単位
日本語学特別研究A・B	選択各2単位
日本文学特別研究A・B	選択各2単位

- ◆ 日本語日本文学研究 C・D
- マンガという「サブカル」文化は、今やメジャーカルチャーであり、メインカルチャーでもあるという「大衆性」を備えている。同時に、時代の先端を行くカウンターカルチャーとしての側面も持っている。こうした点から、マンガが現在どのような「受容」されているかということについて考えてみたい。
- ◆ 日本語教育演習 A・B
- Aで類似表現研究の方法を体得し、Bで類似表現の使い分けに関する指導書を作成する。日本語教師が参考にできる指導書にすることを考え、内容の確かさと文章のわかりやすさが両立した原稿の作成を試みる。

英文学専攻

※2025年4月時点での情報となります。(定年退職などの退職予定者含む)

専任教員プロフィール

稲垣 伸一
専門分野：19 世紀アメリカ文学・文化
最近の研究テーマ等：19 世紀アメリカの文化（宗教・社会改革運動・科学思想など）と同時代の文学作品との相互関係

猪熊 作巳
専門分野：生成文法理論・言語の生物学的基盤
最近の研究テーマ等：名詞句の内部構造と意味解釈・進化的に見た言語理論の最適性

佐々木 真理
専門分野：19～20 世紀のアメリカ文学
最近の研究テーマ等：19 世紀後半から 20 世紀前半にかけての女性文学と時代変容の関係性

志渡岡 理恵
専門分野：18～20 世紀イギリスの女性作家
最近の研究テーマ等：女性の旅行記・冒険小説と帝国主義の関係、少女文化と教育機関の関係

島 高行
専門分野：近代イギリス小説
最近の研究テーマ等：探偵小説とゴシック小説の関係性

諏訪 友亮
専門分野：近代アイルランド文学・文化と英語圏詩
最近の研究テーマ等：アイルランド文学における近代的諸概念とファンズムの関係、世界文学としての英語圏詩

科目紹介【一部抜粋】

英語圏文学・文化を 探求する科目

◆ **英語圏文学・文化研究 A**
Nathaniel Hawthorne の *The Scarlet Letter* を精読する。第一にできるだけ英語を正確に読むこと、第二に、舞台となる場所についての理解を深めながら、各自が主的に本作品に対するアプローチを見いだしていくことをこの授業の目的とする。

◆ **英語圏文学・文化研究演習 B**
アーサー・コナン・ドイル『シャーロック・ホームズの回想』からいくつかの作品を精読し、関連した英語論文も検討することで、文学理論を実際に使い、テキストの理解を深める。近代イギリス社会の諸相が、上記の作品においてどのように表現されているのか批判的に検証し、現代における意義を明らかにする。

土屋 結城
専門分野：19 世紀イギリス小説
最近の研究テーマ等：トマス・ハーディを中心とする 19 世紀イギリス小説に描かれる共同体と個人の関係

難波 雅紀
専門分野：17～19 世紀アメリカ文学・文化。特にニューイングランド・ピューリタニズム文学
最近の研究テーマ等：ピューリタニズムの宗教言説とアメリカン・アイデンティティとの関連性

深瀬 有希子
専門分野：現代アメリカ文学・文化
最近の研究テーマ等：おもにアフリカ系アメリカ文学・文化作品を対象とした、人種・民族・ジェンダーのパフォーマティヴィティの考察

村上 まどか
専門分野：英語の動詞に関する統語論・生成文法
最近の研究テーマ等：英語の仮定法・命令法、文否定辞 not、それらを敷衍して欧州諸語の動詞移動

柳田 亮吾
専門分野：社会言語学、語用論、(批判的)談話研究
最近の研究テーマ等：政治、ジェンダーとイン／ポライトネス

ジェンダー表象を 探求する科目

◆ **ジェンダー表象研究 A**
本授業では、1993 年にノーベル文学賞を受賞した Toni Morrison の第二作目の小説 *Sula* (1973) を精読する。アフリカン・アメリカンが 1920 年代から 1960 年代に至るまでに経験した社会的状況をふまえながら、個人と共同体の関係やアイデンティティの構築性について考察する。特にレスビアニズムの表象が、アフリカ系アメリカ文学に特有のヴァナキュラーの伝統といかに関わっているのかを分析する。

◆ **ジェンダー表象研究演習 B**
19 世紀に活躍した女性作家シャーロット・ブロンテの代表作 *Jane Eyre* (1847) の Volume3 及び批評を読む。Volume3 は、ソーンフィールド・ホールを出てからのジェインの生活がブロッツの中心となる。特に物議を醸しているロチェスターの呼び声が聞こえる場面を中心に精読し、映像とも比較しながら考察を深めたい。

言語を探求する科目

◆ **言語学研究 A**
本授業では社会言語学・語用論・談話分析と深く関連する批判的談話分析 (Critical Discourse Analysis) の基礎を学び、ことばに起因する社会の問題について批判的に分析・考察することを目的とする。授業は主に英語で書かれた教科書を輪読していく形で進める。授業の最後には社会で実際に用いられていることばを収集し、談話分析を行い、その結果を発表する機会を設ける。

◆ **言語学研究演習 C**
Noam Chomsky, *What Kind of Creatures Are We?* (Columbia University Press, 2015)を読む。高度に学術的・抽象的な議論を読み解き、歴史的背景に照らしながらその言語観を検討・評価する。

言語と文化を 多角的な視点から 探求する科目

◆ **言語と文化 A**
19 世紀初めの Maria Edgeworth から 20 世紀後半の Eavan Boland まで、近現代アイルランド文学・文化のキーテキストを概観する。アイルランドのナショナリズム、プロヴィンシャルイズム／ローカリズムをテーマとする一通りのテキストを読むことで、ポストコロナアル地域であるアイルランドで争点となってきたテーマを理解することを目的とする。

カリキュラム

修士課程 カリキュラム			
科目名	単位数		
英語圏文学・文化研究A・B・C・D	選択各2単位		
英語圏文学・文化研究演習A・B・C・D	選択各2単位		
言語学研究A・B・C・D	選択各2単位		
言語学研究演習A・B・C・D	選択各2単位		
ジェンダー表象研究A・B・C・D	選択各2単位		
ジェンダー表象研究演習A・B・C・D	選択各2単位		
言語と文化A・B	選択各2単位		
言語と文化研究A・B	選択各2単位		
専門演習	必修4単位		

美術史学専攻

※2025年4月時点での情報となります。(定年退職などの退職予定者含む)

専任教員プロフィール

串田 紀代美
専門分野：近現代芸能史(民俗芸能)、文化資源学、日本語教育
最近の研究テーマ等：占領期アーニー・バイル劇場における舞台演出に関する研究、ダンス・アーカイブの構築、伝統音楽・芸能によるアートマネジメント人材育成、アカデミック・リテラシーの教授法・教材開発

児島 薫
専門分野：日本近代美術史
最近の研究テーマ等：日本近代美術における女性像についてのジェンダー論、ポスト・コロニアリズムの観点からの分析および東アジア美術との比較、女性画家について

駒田 亜紀子
専門分野：西洋中世美術史
最近の研究テーマ等：①中世後期における托鉢修道会の展開と彩飾写本のレパトリーの変容、②中世後期におけるラテン語および俗語による聖書系写本彩飾の展開

齋藤 達也
専門分野：西洋近代美術史
最近の研究テーマ等：①19 世紀フランスの美術批評、②西洋における日本美術の受容(ジャポニスム)、③印象派の芸術

科目紹介【一部抜粋】

◆ **日本美術史特論 A**
江戸時代の絵画をめぐる諸問題について論じる。具体的な作品を取り上げ、画面の分析や文献資料の読解等に基づき、その特色を検証する。それを通じて、美術史学の方法論への理解を深める。

◆ **日本近代美術史特論 A**
東アジアの美術と日本近代美術との関わりについて考察し、幅広い視野のもとに日本美術をとらえなおす。適宜、開催中の展覧会を見学し、作品研究を深める。

◆ **仏教美術史特論 A・B**
日本・東洋の仏教美術史及び彫刻史の諸問題を検討する。さまざまな方法論を理解し、作品に対するアプローチの仕方を知ること到達目標とする。

◆ **西洋美術史特論 A・B**
Aでは、西洋美術における歴史画および静物画・寓意画をめぐる問題について、Bでは、西洋美術における図像分析と図像プログラム、そしてこれに関わる作品受容について考える。

◆ **西洋近代美術史特論 A・B**
西洋近代美術への様々なアプローチを学ぶ。日本語と英語による研究文献の読解を通じて、知識の幅を広げながら、研究方法と論文執筆方法を修得する。

◆ **現代美術史特論 A・B**
主に戦後から現在にかけてのグローバルな現代美術の通史を概観する。また、現代美術の歴史を理解するうえで不可欠な理論を修め、論文執筆するための基礎を構築する。

◆ **芸術学特論 A**
アートの領域の広がりや、文化政策、アートマーケット、社会からのニーズ等から考察し、それらが私たちの人生・生活を創造的に組み直すツールであることを確認する。

◆ **民俗芸能特論 C・D**
国際日本研究の立場から、所与のものとされている「日本」の文化事象について批判的に考察し、自己と他者の視点から理解を深める。民俗学・民俗芸能を起点としながら、歴史学、文化人類学、音楽学、舞蹈学など領域横断的な視点と文化研究の手法を構築し、各自の研究テーマに繋げる。

椎原 伸博
専門分野：美学・芸術学
最近の研究テーマ等：①現代芸術論、②スペイン市民戦争の写真、③オペラ研究、④アートマネジメントの理論的研究

馬淵 美帆
専門分野：日本中・近世絵画史
最近の研究テーマ等：江戸時代絵画と俳諧文化の関わり、18 世紀京都画壇の画家たち、英一蝶作品の評価と受容

武笠 朗
専門分野：日本彫刻史
最近の研究テーマ等：平安後期における和様彫刻の成立と展開、後白河上皇と蓮華王院造像、浄土の造形、円派仏師研究

山本 浩貴
専門分野：現代美術史、文化研究
最近の研究テーマ等：①2000 年代以降の日本における地域芸術祭、②エスニック・マイノリティの芸術、③現代アートにおけるジェンダーとエコロジーの問題

◆ **仏教美術史演習 A・B**
Aでは、古記録・古文書の読み方などを、Bでは関連諸学との関わり、経典等仏教文献の読み方、作品の実地調査・見学の仕方、作品の調査の書き方などを身につける。

◆ **西洋美術史演習 A**
西洋美術史研究の基礎的方法論と、対象に適した調査・研究方法を実践的に学ぶ。各自の研究テーマに沿って、資料収集・調査、資料・史料の解析・読解等を段階的に修得する。

◆ **西洋近代美術史演習 A・B**
西洋近代美術を対象とする研究方法を、各自の関心のある具体的なテーマに即して学ぶ。専門的な文献の探索手段、オンライン・リソースの活用法、作品分析と論述の技術などを身につけることで、独自性のある研究を発展させる。

◆ **総合演習**
修士論文執筆予定者が、各自の研究の成果を持ち寄り、口頭発表を行う。また、すべての分野の教員・院生が参加し、相互に討論検討する。自らの研究状況を確認するとともに、他分野の視線によって、新たな問題点を見だし、研究内容をさらに深化発展させる。

◆ **日本美術史特殊研究 A**
受講者の研究テーマに即した内容で実施する。各受講者の研究テーマに関わる文献資料を読解しつつ、研究上の課題の整理と解決を目指す。状況に応じて、関連する展覧会見学や作品調査を行い、研究を深める。

◆ **日本近代美術史研究指導特殊演習A**
日本近代美術に関しては作品、資料、文献に数多く接することができるので、それらを整理しながら批判的に読み解くことを学ぶ。主体的に研究する姿勢を身につけていけるよう、実際の論文執筆を個人指導する。

◆ **芸術学研究指導特殊演習 A**
「都市の美学」という問題意識にたち、その都市形成の歴史を踏まえた上で、そこで開花したさまざまな芸術活動を分析し、その都市が有する独特の美意識について検討する。

カリキュラム

博士前期課程 カリキュラム			
科目名	単位数		
日本美術史特論A・B・C・D	選択各2単位		
日本近代美術史特論A・B・C・D	選択各2単位		
仏教美術史特論A・B・C・D	選択各2単位		
西洋美術史特論A・B・C・D	選択各2単位		
西洋近代美術史特論A・B・C・D	選択各2単位		
現代美術史特論A・B・C・D	選択各2単位		
芸術学特論A・B・C・D	選択各2単位		
民俗芸能特論A・B・C・D	選択各2単位		
日本美術史演習A・B	選択各2単位		
日本近代美術史演習A・B	選択各2単位		
仏教美術史演習A・B	選択各2単位		
西洋美術史演習A・B	選択各2単位		
西洋近代美術史演習A・B	選択各2単位		
現代美術史演習A・B	選択各2単位		
芸術学演習A・B	選択各2単位		
民族芸能演習A・B	選択各2単位		
総合演習	選択2単位		
特殊研究A・B・C・D	選択各2単位		
特殊演習A・B・C・D	選択各2単位		

博士後期課程 カリキュラム			
科目名	単位数		
日本美術史特殊研究A・B	選択各2単位		
日本近代美術史特殊研究A・B	選択各2単位		
仏教美術史特殊研究A・B	選択各2単位		
西洋美術史特殊研究A・B	選択各2単位		
芸術学特殊研究A・B	選択各2単位		
日本美術史研究指導特殊演習A・B	選択各2単位		
日本近代美術史研究指導特殊演習A・B	選択各2単位		
仏教美術史研究指導特殊演習A・B	選択各2単位		
西洋美術史研究指導特殊演習A・B	選択各2単位		
芸術学研究指導特殊演習A・B	選択各2単位		
研究方法特殊研究	選択2単位		

人間社会研究科

◆ 募集人数 ◆

修士課程 | 人間社会専攻 : 7名

研究科の概要

「社会・教育」と「ビジネス」の2つの観点から研究に取り組みます。

人間社会専攻

〔修士課程〕

人間社会研究科は、わたしたちを取り巻く現実社会における今日的な諸問題を、人間と社会の学際的な研究を通じて総合的・体系的に理解し、高度な専門的知識・能力を駆使して、これらの問題を解決していく組織のリーダー的人材を育成します。カリキュラムは、「社会・教育系専門科目」と

「ビジネス社会系専門科目」の2つの専門科目群を核に、共通基礎科目、関連科目、演習科目から構成されており、自分の関心や進路、専門分野に応じた履修が可能となっています。また、関連科目を履修することにより、「専門社会調査士」の資格を取得することができます。

研究領域の概念図



◆ 養成する人材像

産業社会の高度化・複雑化、経営の効率化、グローバル化の進行。いま、私たちの社会では、あらゆる場面で高度な専門的知識と技能が求められるようになりました。さらに、インターネットを基盤とする情報の高度化や技術革新への対応には、問題を適切に解決に導く能力と柔軟な応用力、発想力が求められ

ています。このような現代社会において、企業、地域社会、自治体、教育現場等でリーダーシップを発揮できる「高度な専門的知識と技能を兼ね備えた人材」を育成します。

主に社会・教育系を学ぶ履修モデル

教育・文化事業に貢献できる人材

心理学、社会学、教育学などの専門的知識を身につけ、教育・文化事業や社会貢献活動、地域活性化活動などをマネジメントできる人材を育成します。

キャリアパス〈修了後の進路イメージ〉

自治体／官公庁／社会的企業／NPO法人／一般企業／病院 等

主にビジネス系を学ぶ履修モデル

ビジネスにおいてリーダーシップを発揮できる人材

会計、人事、マーケティングなどの経営学や経済学、法学などの専門的知識とリーダーシップ能力を身につけ、あらゆる分野、業種の中堅幹部やマネジャー、さらにはシンクタンク等の研究員として活躍できる人材を育成します。

キャリアパス〈修了後の進路イメージ〉

一般企業(人事・総務・経理・営業)／官公庁／シンクタンク／コンサルティング会社 等

人間社会研究科

人間社会専攻

※2025年4月時点での情報となります。(定年退職などの退職予定者含む)

専任教員プロフィール

粟津 俊二

専門分野：認知科学

最近の研究テーマ等：言葉の理解に関する認知過程・脳内過程の解明と教育への応用

井上 綾野

専門分野：消費者行動論

最近の研究テーマ等：倫理的消費と消費者政策

角本 伸晃

専門分野：地域経済学、観光経済学、都市経済学

最近の研究テーマ等：観光による地域活性化の経済分析

神山 静香

専門分野：民事法学(商法・会社法・金融商品取引法)

最近の研究テーマ等：M&A法制、株主代表訴訟、証券訴訟、コーポレートガバナンス・取締役の義務と責任、コンプライアンス、ESGと企業法務

駒谷 真美

専門分野：メディア情報リテラシー、メディア社会心理学、ICT教育

最近の研究テーマ等：乳児期から老年期までの「メディア情報リテラシー生涯発達理論」の構築と実践研究

標葉 靖子

専門分野：共創デザイン、市民の科学技術関与

最近の研究テーマ等：「科学技術と社会」をめぐって科学技術イノベーション・人材育成政策研究、科学コミュニケーション・対話デザイン実践研究

篠崎 香織

専門分野：経営学(戦略論、組織論)

最近の研究テーマ等：イノベーション・マネジメント、産業集積のダイナミクス

蒋 飛鴻

専門分野：会計学

最近の研究テーマ等：会計情報の有用性

竹内 光悦

専門分野：統計科学

最近の研究テーマ等：量的・質的データに基づく行動計量分析、統計教育のカリキュラム研究およびその国際比較調査

竹内 美香

専門分野：健康心理学、発達心理学(パーソナリティ形成の問題を含む、青年期の心身の健康に関わる心理社会的要因)

最近の研究テーマ等：幼少期の被養育経験と青年期以降の心身の健康、および気質と性格の形成、青年期の進路探索と自己効力感、レジリエンス、青年期の食行動

時田 朋子

専門分野：社会言語学

最近の研究テーマ等：世界の英語と教育、カナダの多言語状況

初見 康行

専門分野：経営学(人的資源管理・キャリア教育)

最近の研究テーマ等：人材育成、インターンシップ、天職感

原田 謙

専門分野：都市社会学、社会老年学

最近の研究テーマ等：社会的ネットワークと健康、持続可能なまちづくり、プロダクティブ・エイジング

広井 多鶴子

専門分野：教育社会学、家族社会学

最近の研究テーマ等：現代の親子関係をめぐる諸問題と教育問題 親子関係制度の歴史

坊 隆史

専門分野：臨床心理学、産業・組織心理学

最近の研究テーマ等：職場のメンタルヘルス、男性ジェンダーの心理学

山根 純佳

専門分野：社会学、ジェンダー研究

最近の研究テーマ等：ジェンダー理論、家事・ケア労働論、介護労働市場とジェンダー

吉田 雅彦

専門分野：経済政策、企業研究、国際経営

最近の研究テーマ等：国際経営のための経営学、国際経済事情

カリキュラム

共通基礎科目

科目名	単位数
コミュニケーション特論	選択2単位
リーダーシップ特論	選択2単位
研究方法特論	選択2単位

社会・教育系科目

科目名	単位数
都市社会学特論	選択2単位
ダイバーシティ特論	選択2単位
ソーシャルメディア特論	選択2単位
教育社会学特論	選択2単位
教育工学特論	選択2単位
社会言語学特論	選択2単位
社会心理学特論	選択2単位
認知心理学特論	選択2単位
人格心理学特論	選択2単位
応用心理学特論	選択2単位

演習科目

科目名	単位数
専門演習Ⅰ	必修4単位
専門演習Ⅱ	必修4単位

ビジネス社会系科目

科目名	単位数
現代経営学特論	選択2単位
経営戦略特論	選択2単位
経営分析特論	選択2単位
人的資源管理特論	選択2単位
マーケティング特論	選択2単位
国際企業論特論	選択2単位
地域経済分析特論	選択2単位
ビジネス関連法特論	選択2単位
情報社会システム特論	選択2単位

関連科目(専門社会調査士)

科目名	単位数
社会調査研究特論	選択2単位
社会統計特論	選択2単位
調査企画特論	選択2単位

人間社会専攻

※2025年4月時点での情報となります。(定年退職などの退職予定者含む)

科目紹介【一部抜粋】

共通基礎科目

◆ コミュニケーション特論

今日、専門化・細分化している「コミュニケーション」を、あらためて現代社会が抱える諸問題を解決し、それに対処する能力をつけるための「コミュニケーション学」として捉え直す。

◆ リーダーシップ特論

本講義では、リーダーシップの理論を体系的に学ぶ。講義前半では代表的な5つの理論を学び、講義後半では、女性活躍をテーマに女性リーダーの育成や課題点について学ぶ。

◆ 研究方法特論

社会科学分野の研究にはさまざまな方法がある。この授業では、社会学、教育学、心理学、経営学、経済学を専門とする教員が、それぞれの研究分野の代表的な研究方法についてオムニバスで講義する。

社会・教育系科目

◆ 都市社会学特論

都市の空間・社会構造をとらえる理論を理解し、実証研究を進めるために必要な社会地区分析やネットワーク分析などの方法を身につける。さらに地域特性に応じた「まちづくり」の現状と構想について、自治体と住民の協働（パートナーシップ）の視点などから検討する。

◆ ダイバーシティ論

ジェンダー平等や多様性をめぐる現代社会の課題について取り上げる。雇用の場におけるクォータ制の導入など政策的課題と同時に、男女間の差異をどのように概念化するのかという理論的な争点について考察する。

◆ ソーシャルメディア特論

ソーシャルメディアの発展・普及によって社会的コミュニケーションすなわち「社会関係資本」の在り方や「公共性」の現れがいかに変化していくかについて分析・考察する。

◆ 教育社会学特論

この講義では、現代の家族や学校において注目を集めているさまざまな教育問題を取り上げ、その問題について実証的かつ歴史社会的に分析を行う。

◆ 教育工学特論

教育工学は心理学やコミュニケーション学等の人間に関する学問分野を礎に、人文社会系と理工系が加わり、工学的発想の下、教育学的諸理論と方法論の応用が実際論と結びついたものである。情報基盤経済の今、その改革力と教育的役割は重要視されている。これを問題解決の方法や目標達成の学問と捉え、デザイン化していく。

◆ 社会言語学特論

言語と社会は切り離すことができない関係にある。本講義は、言語使用者の属性や言語使用状況がどのような影響を言語使用に与えているかについて、具体的な事例を上げて多角的に考察する。

◆ 社会心理学特論

情報社会において、メディアは様々な思惑でメッセージを伝えている。本講義では「世界で最も影響力のある社会批評家」と言われるチョムスキーの理論を援用し、米国の最新Web教材を元にプロパガンダの分析法を学修することで、情報社会が抱える課題について思索していく。

◆ 認知心理学特論

認知心理学は、ヒトが何かを見聞きし、判断し、記憶し、考える仕組みを扱う学問である。認知心理学の概念や考え方は、さまざまな分野に応用されており、人間に関する多くの学問の基盤ともなっている。この講義では、コミュニケーション場面を中心に、理解の仕組み、わかりやすい説明方法などについて考えていく。

◆ 応用心理学特論

応用心理学とは心理学の学問知識を社会的課題に応用させる心理学分野である。本講義では受講生の研究テーマについて心理学の観点から概観することで、自身の修士論文テーマについて新たな視座を得ることを目指す。

ビジネス社会系科目

◆ 現代経営学特論

組織とそこで働く人に注目し、組織の目標達成に向けたマネジメントについて学習する。さまざまな理論についての理解を深めることを通して、経営学の基礎的な概念の習得および理論を実践につなげる力の養成を図る。

◆ 経営戦略特論

企業の戦略策定と実行を取り上げた多様なケースをもとに、経営戦略に関する基礎的な理論および実践の方法を学習することを通して、実践の場で活きる分析能力および問題解決能力の養成を図る。

◆ 経営分析特論

企業の財政状態や経営成績を正しく理解するために、経営分析の知識を身につける必要がある。本授業では、財務諸表の分析を通じて、企業の収益性、安全性、生産性、成長性をいかに把握するか、その分析手法の修得を目的とする。

◆ 人的資源管理特論

本講義では、人的資源管理の歴史的変遷を学び、人材マネジメントの基本フレーム（採用・配置・評価・育成・処遇など）を学ぶ。講義後半では、WLBや女性の活躍推進など、今日的なテーマを検討する。

◆ マーケティング特論

マーケティングは、さまざまなビジネス領域はもちろん、その活用領域は地域社会、行政機関や非営利組織へも拡張されている。現代社会が直面するマーケティング課題を自ら適切に把握し、その解決策を策定し、それを遂行できる能力の習得を目的とする。

◆ 国際企業論特論

国際企業の戦略、組織、機能に関する最先端の研究成果を学習。国際企業で事業活動を推進する経営者・管理者に必要な洞察力を高め、ビジネス社会に貢献する女性リーダーの育成を図る。

◆ 地域経済分析特論

地域経済の中で観光地・観光産業に焦点を当てて、それに関するデータのネット上での入手方法などを修得した上で、観光産業の経済効果や観光地・観光施設の特性などを分析することを目的とする。データ分析は基礎レベルでは、Excelを用い、回帰分析や多変量解析においては、SPSSなどのソフトウェアを用いる。

◆ ビジネス関連法特論

企業を組織的側面から規律する会社法や商取引に関わる商法、金融商品取引法（証券法）等の会社法に隣接する分野の法律を中心に知識を修得する。日本や諸外国の判例・学説、立法の動向を踏まえ、理論と実務の双方の観点から、受講生の研究テーマに関わる法的諸問題を考察する。

◆ 情報社会システム特論

情報技術のめまぐるしい進展がもたらした様々な社会システムの変容について概説したのち、とりわけ現代社会の秩序化や権力作用を媒介する多様な「メディア」に注目し、デジタルメディア社会の可能性と課題について分析・考察する。

関連科目（専門社会調査士）

◆ 社会調査研究特論

新聞・雑誌記事などの質的データの分析方法（内容分析等）を習得するとともに、さまざまな質的調査法（インタビュー、参与観察、ドキュメント分析、会話分析など）の習得を目指す。

◆ 社会統計特論

社会調査法・社会統計学の基礎を交えながら、多変量解析の主な理論を紹介し、計量的データ分析の基礎・応用力を養う。PCを利用しながら、実際にデータを分析し、理論と実践力の両方を習得する。

◆ 調査企画特論

社会調査を自ら企画して実施し、集計・分析を行うために必要な知識・方法を習得する。調査方法の決定、仮説構成、調査票の作成、サンプリング、実査の注意点、調査データの整理の手順といった一連の方法を理解する。実際に調査データを用いて、量的・質的分析に基づく報告ペーパーの作成も行う。

人類の営みを科学する、多彩な研究領域

生活科学研究科

研究科の概要

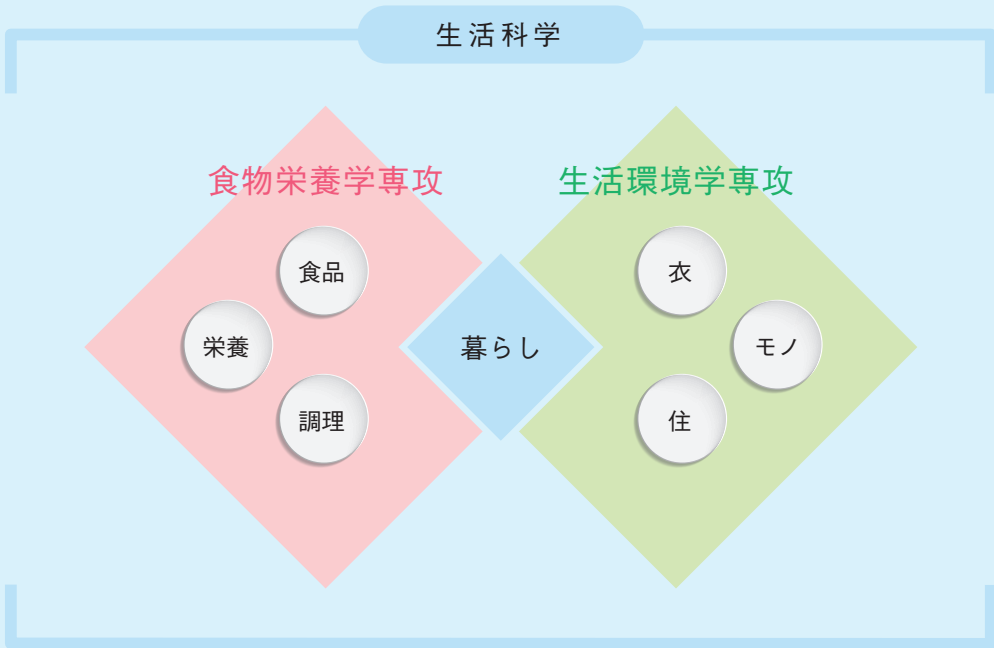
社会や生活と深く関連のある2専攻を設置しています。

食物栄養学専攻

〔博士前期課程・博士後期課程〕

栄養学、食品学、調理学あるいは生理学等に関する高度な知識と研究遂行能力を身につけます。博士前期課程では、自身が定めた研究課題に取り組み、修士論文にまとめます。博士後期課程では、さらなる学識の向上を目指すとともに、学術的価値の高い論文を作成します。

研究領域の概念図



◆ 養成する人材像

食物栄養学専攻

栄養学、食品学、調理学、生理学の知識を活かし、研究職、教育職、高度な専門職へ。

より深い研究に取り組むことで、基礎的あるいは実践的な研究・開発を行う研究職、教育職、および高度な専門的知識を持つ栄養士・管理栄養士や専門技術者を養成します。

キャリアパス〈修了後の進路イメージ〉

研究・教育（大学、研究機関、企業）／医療・福祉（管理栄養士、行政栄養士）／一般企業（食品開発、スポーツ栄養士、栄養アドバイザー等）／公務員・国際機関（厚生労働省、JICA）／独立開業／進学 等

生活環境学専攻

〔修士課程〕

生活環境を構成する「衣」「モノ」「住」の分野における実務と研究能力を磨きます。そのため、人間中心設計学、生活材料科学、衣環境設計学、住環境設計学、環境文化学の各分野での高度な知識と修士論文、修士設計、修士制作の作成過程における研究能力をバランスよく高めていきます。研究成果は専門学会等で発表します。一級建築士受験資格の実務経験（1年）の要件を満たせるカリキュラム構成となっています。

生活環境学専攻

「衣」「モノ」「住」の分野を中心に社会で活躍する専門家を養成。

「衣」「モノ」「住」「コミュニティ」に関わる高度な知識を身に付け、さらに「生活の文化的側面」を理解した専門家を養成します。実務と研究について十分な知識と遂行能力を養い、職業人として長く活躍できる基盤を築きます。

キャリアパス〈修了後の進路イメージ〉

一級建築士／検査機関（建築、繊維・アパレル分野）／デザイナー／研究職（大学等）／進学 等

※各免許・資格は本学大学院修了と同時に取得または受験資格を得られるものではありません。

食物栄養学専攻

※2025年4月時点での情報となります。(定年退職などの退職予定者含む)

専任教員プロフィール

大道 公秀
専門分野：食品衛生学、考古化学
最近の研究テーマ等：①カビ毒の安定性と類縁体の探索、②古代食解明に向けた考古化学的アプローチ

於保 祐子
専門分野：小児科学、代謝学、分子遺伝学
最近の研究テーマ等：食行動について、発達過程の遺伝的プログラムとその制御に関わる事象を、分子レベルから臨床まで幅広い視点で研究する

寛 慎治
専門分野：生理学、病態生理学、神経解剖学
最近の研究テーマ等：①神経疾患の簡便かつ非侵襲的な病態評価方法の確立、②小児の運動機能発達の研究

数野 千恵子
専門分野：調理科学
最近の研究テーマ等：①水の硬度および水素イオン濃度が調理性に与える影響、②食器の色や絵柄が料理のおいしさに与える影響

佐々木 溪円
専門分野：公衆衛生学、小児保健学
最近の研究テーマ等：①健やか親子21（第2次）の目標達成に関する母子保健領域の研究、②食物アレルギーに関する社会医学からのアプローチ

白尾 美佳
専門分野：食品栄養学
最近の研究テーマ等：①食品中の機能性物質に関する研究、②食品栄養成分の鏡像異性体に関する研究、③各ライフステージにおける食嗜好や食育に関する研究

杉山 靖正
専門分野：食品分析学、天然物化学
最近の研究テーマ等：①食品に含まれる機能性物質の化学構造および含有量の決定、②低利用および未利用資源の食品への有効活用

鈴木 浩明
専門分野：臨床栄養学、内分泌代謝学
最近の研究テーマ等：①2型糖尿病患者における栄養療法と運動療法による筋力強化および転倒予防、②アミノ酸代謝物とがんとの関連

中村 彰男
専門分野：栄養生化学、分子栄養学
最近の研究テーマ等：①胎児期の栄養が生まれた子の将来の疾病に及ぼす影響、②エクソソームを用いた新規バイオマーカーの探索

奈良 一寛
専門分野：食品化学
最近の研究テーマ等：①新たな食資源の有効活用法の探索、②調理加工による食品成分の変動とその利用

長谷川 めぐみ
専門分野：国際栄養学、栄養教育、公衆栄養学
最近の研究テーマ等：①開発途上国における栄養教育ツールの開発、②アジア、アフリカ諸国における学校給食の意義と栄養教育との関連

カリキュラム

博士前期課程 カリキュラム	
科目名	単位数
栄養学特論A・B・C・D	選択各2単位
栄養学演習	選択2単位
栄養学実験	選択2単位
生理学特論A・B・C	選択各2単位
食品学特論A・B・C	選択各2単位
食品学演習	選択2単位
食品学実験	選択2単位
公衆衛生学特論	選択2単位
食品衛生学特論	選択2単位
高分子化学特論	選択2単位
調理科学特論A・B・C	選択各2単位
食物栄養学特別講義A・B・C	選択各2単位
特別研究	必修12単位

博士後期課程 カリキュラム	
科目名	単位数
栄養学特別演習A・B・C・D	選択各2単位
食品学特別演習A・B・C	選択各2単位
食品衛生学特別演習	選択2単位
調理科学特別演習A・B	選択各2単位
生理学特別演習	選択2単位
博士特別研究	必修8単位

博士後期課程

◆ **栄養学特論 A**
栄養がヒトの健康に与える影響について、栄養素が、細胞の代謝に与える影響から、ヒトの健康に及ぼす影響について英文原著を精読して最新の知見を理解する。論述の様式や検証法の組み立て、考察の展開法も深めていく。

◆ **栄養学特論B**
人の体と栄養素との関係、特に個別の遺伝学的背景にあった栄養摂取について、分子レベルの現象として理解を深める。各自が課題を設定し、英文も含めて論文を輪読することで、課題を解決する過程を学ぶ。

◆ **栄養学実験**
無菌操作に基づいた細胞培養法を習得し、数種の培養細胞を用いた実験を行う。栄養学の研究に欠かせない個体、組織、細胞を用いた系に関する基礎的な実験技術の習得を目的とする。

◆ **生理学特論 A**
疾病の成り立ちが分子レベルで明らかになり、多くの薬物が開発されている。体内において薬物がどのような仕組みで働くかについて、分子レベルでの理解を深めることを目的とする。

◆ **食品学特論 A**
日本および世界の食料事情にも目を向けながら、農林水産物の特徴や有用性について理解を深め、有効な利用法について考えていく。さらに、原著論文の購読やそれについてのプレゼンテーションも行い、研究の組み立てや結果の伝え方についても修得する。

◆ **食品学特論 C**
食品成分は生命活動を維持するだけでなく、生体を調節する機能性も存在する。そこで近年の食品分析ならびに食品機能性の評価方法について理解することを目的とする。

◆ **公衆衛生学特論**
すべての人は、健康的に生活する権利をもっている。ここでは、健康を左右する要因について科学的根拠に基づいて理解を深め、食物栄養学を専攻する科学者や行政に求められる対策を考える。

◆ **調理科学特論 B**
調理は食品が持つ栄養素を有効に利用し、嗜好性を満足させることである。食品を調理する際に起こる様々な変化について科学的に理解し、嗜好性を充たさせ機能性を活用するための調理を習得することを目的とする。

◆ **栄養学特別演習 A**
臨床栄養学に関する最新の英語論文を読みながら理解を深め、臨床研究の研究手法と研究内容について学び、研究課題の着眼、発掘、研究計画の構築法、理論の展開法など臨床研究遂行に必要な能力を習得する。

◆ **栄養学特別演習 C**
ライフサイエンス分野の最新の英語論文を精読し、ピアレビューを行いながら、データのまとめ方や論文投稿のプロセスを学びます。また、研究資金の調達方法や、研究者倫理・生命倫理についても解説します。

◆ **食品学特別演習 C**
特定保健用食品および機能性の作用メカニズムの解析が行われている食品を題材にして、機能性食品の作用機序、有効性、安全性に関する学術論文の解説を行い、機能性食品の研究手法と解析・実証方法を学ぶ。

◆ **生理学特別演習**
この演習授業では筋細胞を構成しているタンパク質とその遺伝子発現機構について学習し、骨格筋の可塑性について理解を深めることを目的とする。

生活環境学専攻

※2025年4月時点での情報となります。(定年退職などの退職予定者含む)

専任教員プロフィール

安齋 利典
専門分野：プロダクトデザイン、ヒューマンセンタードデザイン
最近の研究テーマ等：プロダクトデザイン教育に関する研究、BtoB 機器の操作性 /UX に関する研究

大川 知子
専門分野：ファッションビジネス・企業経営史
最近の研究テーマ等：ファッション関連企業の経営と事業戦略、日本における欧米ファッションの受容など

加藤木 秀章
専門分野：繊維工学、テキスタイル材料、複合材料工学
最近の研究テーマ等：表面処理を施した天然繊維の特性、繊維を用いたエコマテリアルの創製とその特性

笠原 良太
専門分野：家族社会学、ライフコース論、家族関係学
最近の研究テーマ等：産業構造転換と子どもの発達・人生移行、高年期における人生回顧・再検討、教育実践の社会史・アーカイビング

作田 由衣子
専門分野：認知心理学、知覚心理学
最近の研究テーマ等：①印象の知覚が記憶に及ぼす影響、②乳幼児でも顔から印象を知覚できるか など

佐藤 健
専門分野：人間工学
最近の研究テーマ等：①日常生活における安全行動と事故要因に関する研究、②高齢者・障がい者の運動機能に関する研究

塩原 みゆき
専門分野：被服整理学、染色加工
最近の研究テーマ等：家庭洗濯から排出される繊維クズの回収、ストックング・タイツの紫外線防衛効果

須賀 由紀子
専門分野：余暇・生活文化学、地域文化形成論
最近の研究テーマ等：多世代交流のコミュニケーション・ツール開発、地域の価値共有手法の開発、スポーツと地域活性、関係人口と地域自立社会の形成

高橋 桂子
専門分野：生活経営学、生活経済学
最近の研究テーマ等：①大学生の金融リテラシーに関する実態調査、②父親の家事参加が子の非認知能力に与える影響に関する研究

滝澤 愛
専門分野：ファッションデザイン、被服構成学
最近の研究テーマ等：日仏のファッションデザイン教育比較の研究、20 世紀初頭フランスのパターン研究、和式洋裁の実態の研究

橘 弘志
専門分野：建築計画学、環境行動研究
最近の研究テーマ等：高齢者や子供のための居住施設の計画・評価、人子供の発達環境としての住まい、都市の魅力に関する研究など

内藤 将俊
専門分野：建築・都市デザイン、建築計画、市民ワークショップ
最近の研究テーマ等：盲老人ホームにおける入居者の行動分析に関する研究、設計・施工監理の実践による先進的空間思想の構築に関する研究

槇 究
専門分野：環境心理学、色彩計画
最近の研究テーマ等：インテリア・ファッションなどのカラーコーディネート印象評価研究、夜間街路の光環境ガイドラインに関する研究、人の存在が街並み評価に及ぼす影響など

科目紹介【一部抜粋】

◆ **人間中心設計学演習 A**
環境生理学、環境科学、生理人類学、人間工学、工業デザイン等の中から、学生にとって有用なテーマについて実験を行う。なお、実験器具の制作や加工技術の体験等を行うこともある。

◆ **人間中心設計学特論 B**
近年、生体信号を用いて、福祉機器の制御や評価を行う試みが進められている。そのために必要な生体信号とその処理の方法について学修する。理論や計算だけでなく、信号処理ソフトによる演習も行う。

◆ **人間中心設計学特論 C**
プロダクトデザインの手法や理念は企業が経営戦略として活用しており、アパレルや建築、農業の領域にまでおよぶ。そこで、モノ作りからマーケティングまで、プロダクトデザインの世界を広く解説する。

◆ **生活材料科学特論 B**
経済発展や大量生産・消費・廃棄の生活により様々な環境問題が生じていることに気付き、環境に配慮した持続可能な生活を実現するための基本的な環境科学を学習します。

◆ **生活材料科学実験 B**
自然エネルギーの一つであるバイオマスの燃料化などの実験に取り組み、有機エネルギー資源の基本的な実験操作、及び有機化学の基本的な機器分析を修得する。特にバイオマス資源から様々な燃料(化石資源代替燃料)が得られることと、その問題点を実践的に理解する。

◆ **生活材料科学特論 C**
染色・加工された被服材料やインテリア材料などを適切な維持管理する上で必要な、それら素材の構造、物性、特性について学び、染色加工の工程や消費性能についても理解を深める。

◆ **生活材料科学実験 C**
繊維や染料、染色物を測定・分析する際に用いる機器の扱い方を習得する。タンパク質および油汚れの測定等、分光分析、分離定量を中心に行う。

◆ **衣環境設計学特論 A**
被服行動や消費者行動を社会心理学的な視点から学び、ファッション企画に必要な消費者に対する理解を深める。ファッションの色彩嗜好やライフスタイルについても触れ、心身の要因から衣の消費生活を理解する。

◆ **住環境設計学演習 A**
アンケート調査、インタビュー手法、ブレインストーミング、評価グリッド法など、環境形成および環境調査に関わる調査手法や発想法を学ぶ。その後、自ら設定したテーマに関して Multi-Method の調査を実施する。

◆ **住環境設計学特論 B**
「建築理論の創造」をテキストに講義する。同書第2部の「実体的理論—環境と人間の行動」を中心に、環境行動研究アプローチからインテリア・建築・都市などの環境デザインについて議論する。

◆ **住環境設計学演習 C**
特定の实在する具体的な環境のもと、その物理的条件や周辺環境、地域性、社会性を分析した上で、各自が考える空間思想に基づいて新たなプログラムやスペースのデザインに取り組む。

◆ **環境文化学特論 A**
史実やその文化的背景を探りながら、ファッションに関連したライフスタイル全般について、19世紀半ばから現代に至る変遷を、文化的な視点から検証する。

修士課程 カリキュラム	
科目名	単位数
人間中心設計学特論A・B・C	選択各2単位
人間中心設計学演習A・B・C	選択各1単位
生活材料科学特論A・B・C	選択各2単位
生活材料科学実験A・B・C	選択各1単位
衣環境設計学特論A・B	選択各2単位
衣環境設計学演習A・B	選択各1単位
住環境設計学特論A・B・C	選択各2単位
住環境設計学演習A・B・C	選択各1単位
環境文化学特論A・B・C	選択各2単位
環境文化学演習A・B	選択各1単位
高分子化学特論	選択2単位
生理学特論	選択2単位
生活情報科学	選択2単位
実験心理学	選択2単位
建築インターンシップ	選択4単位
特別研究(論文・設計・制作)	必修各10単位

◆ **環境文化学特論 B**
人間が家族や社会との相互作用の中でどのように生活してきたか、蓄積されつつある家族と社会の形成に関わる研究成果をとりあげ、当該領域における現状やその動向等を学ぶとともに、家族関係学や生活経営学の視点から考察を深める。

◆ **環境文化学演習 B**
「自然」、「物」、「人」、「時間・空間」、「社会・文化」など子どもを取り巻く環境を、子どもの発達と保育の観点から捉え、日本及び諸外国の最新の研究や保育実践に学び、理解を深める。

◆ **環境文化学特論 C**
文化とは何か、幸福とは何か、コミュニティとは何かといった、人間らしく「ある」ことの根源的なテーマをもとに、人が「文化的に生きる」ということの意味を深め、これからの時代の豊かな生活創造のあり方を考察する。

◆ **生理学特論**
発達障害の生活環境を構造化から考えるTEACCHプログラム、応用行動分析による支援、医療コミュニケーション、精神現象とその生理・病理について学習する。

◆ **実験心理学**
実験心理学、実験臨床心理学(単一事例研究法)における要因配置計画、データ収集方法、および分析、結果のまとめ方、考察の仕方、論文としてのまとめ方を学習する。

◆ **建築インターンシップ**
一級建築士受験資格(実務経験)の要件を満たすことを前提としている。設計・工事監理の実務や実践的な建築設計を行う。